

離職STOP!
2025春闘

3.26京都府要請 & 記者会見!



↑京都府要請の冒頭
要請書を渡す勝野委員長
その後懇談しました



記者会見を行いました!



3月26日(水) 京都府要請と記者会見を行いました。

京都府要請では、府内の医療機関・介護事業所への支援・看護師の確保・定着、医師養成数削減撤回などを要請しました。医療機関・介護事業所への支援や看護師確保についての京都府の回答概要は以下の通り。

- 医療機関・介護事業所に対する物価高騰対策等：国の補正予算の周知や、2月定例会で物価高騰・処遇改善に対応する予算を議決。国の報酬改定の検証結果が出れば速やかに対策を講じるように全国知事会等を通じて国に求めている。介護職員の賃金については処遇改善が介護保険制度の中でしっかり進められるようにセミナー・相談会を開催。
- 看護師確保について：需給推計人数に比べて非常に低いことは認識しており看護協会と連携、確保対策を進めている。府立看護学校定員を40名から60名に増員予定。北部地域で小中学生対象に夏休み看護師体験などを企画。奨学金関係では北部地域・200床未満で返還免除などがある。

その他、医師養成数削減撤回・洛南病院の課題などについて要請しました。回答を受けて参加者からは「国の施策待っているだけではいけない。実態を理解しているのか?」「処遇改善の補正予算は現場の思いからは全然足りない。これまでとは違う水準の対策が必要」などと京都府に強く要望しました。

●記者会見では現場からの切実な訴え!

続いて京都府要請報告や25春闘の回答状況、京都医労連が取り組んだ離職アンケートや入退職調査の報告、離職が止まらない看護・介護現場の実態を訴える記者会見を行いました。医療・介護現場から4名の訴えがされ、マスコミは3社の参加でした。



現場からは・・・

- 3月末で、また大切な仲間が『もう疲れました。頑張れませんが』とたくさん職場を去る。2度のストでは患者さん、ご家族、地域の方々、他産業の労働組合から多くの応援をいただいた。これ以上大切な仲間を失わないように処遇の改善が必要。
- 「看護師は賃金が高い」と思われがちだが、夜勤手当が入っているから。現場では退職、人員不足により病床・病棟閉鎖されている病院があり、医療崩壊が始まっている。このままでは救えるのちが救えない。看護師をはじめとするケア労働者の社会的役割にふさわしい賃金にするために大幅賃上げと大幅増員のための施策を求める。
- 人員不足で緩和ケア病棟体制が縮小された。それはいのちに向き合い生きることを支える看護師にとってつらいこと。死を前に絞り出される患者さんの言葉をさえぎってナースコールに出ている。人が死にゆく最後の病棟にも医療崩壊が迫っている。もうこれ以上持ちこたえられない状況。
- 介護の仕事始めて24年。介護の疲弊・崩壊が出てきている。これから介護が必要な人があふれてくる中で介護事業所が減ったり、職員が去っていくような現状があっては良い介護は提供できないので国が社会保障や介護報酬を見直すことが必要。

★どの参加者からも、職場の切実な状況や働きたいという思いがリアルに語られました。引き続き現場の思いを発信し、実態を調査などで明らかにして、行政・自治体に訴えていくことが大事だと感じる京都府要請と記者会見になりました。参加されたみなさん、大変おつかれさまでした!